

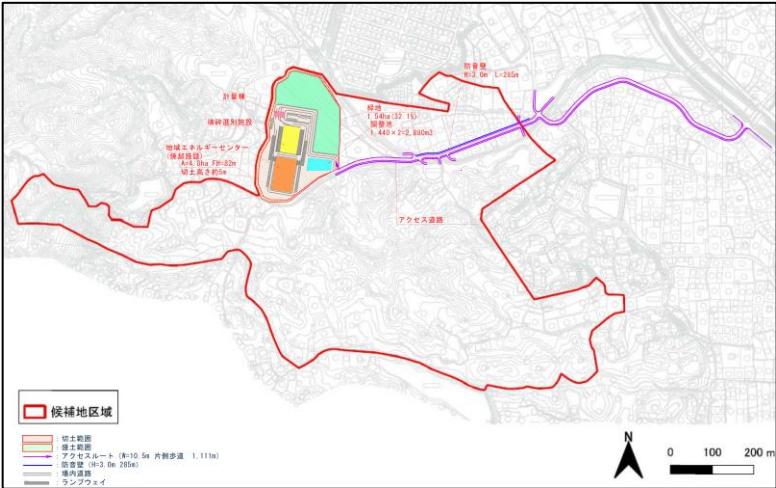
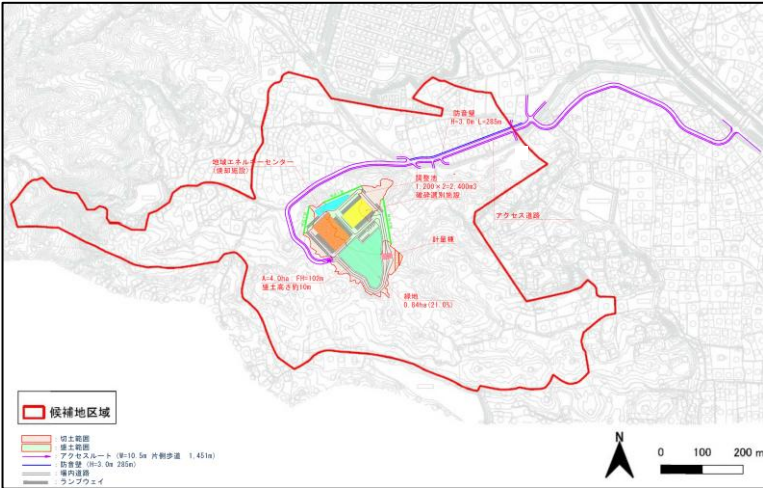
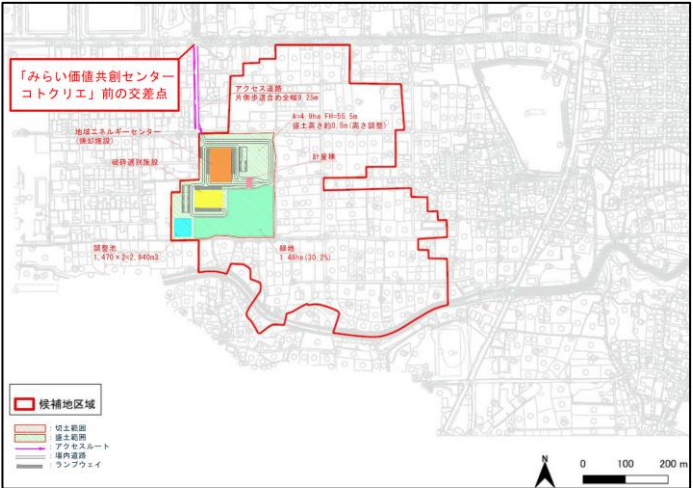
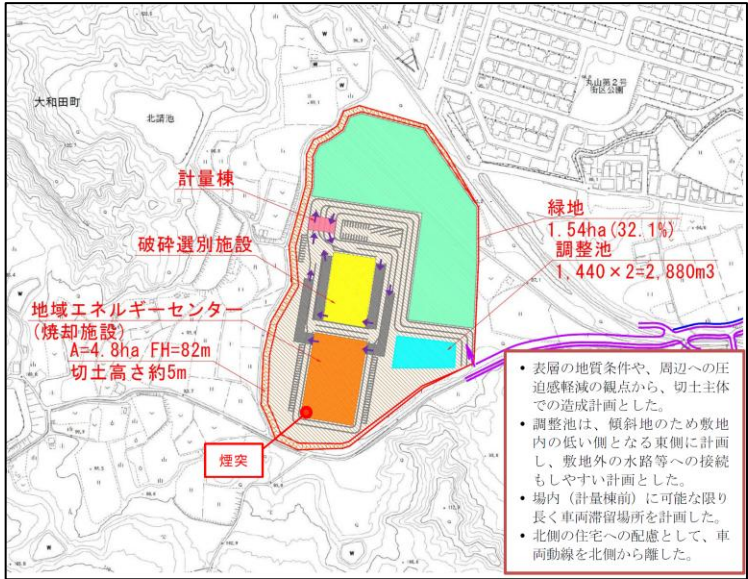
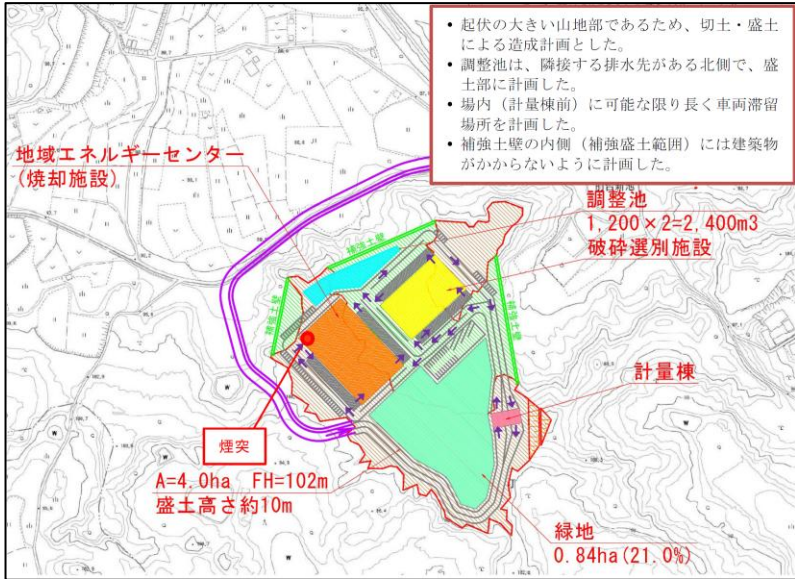
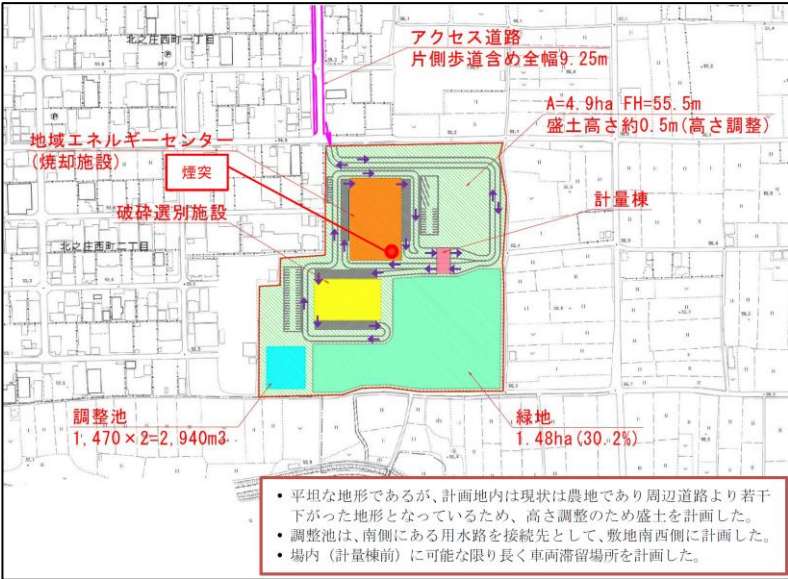
第6章 まとめ

目 次

6. まとめ	6-1
--------------	-----

6. まとめ

2 候補地（建設箇所 3 ヶ所）について、第 2 章～第 5 章の調査・検討結果を取りまとめた。

	候補地 1-1	候補地 1-2	候補地 3
	大和田町北側（平地部）	大和田町南側（山地部）	北之庄町
	52.4haのうち約4.8ha（現況土地利用：田畑）	52.4haのうち約4.0ha（現況土地利用：山林）	28.8haのうち約4.9ha（現況土地利用：農用地）
航空写真（現況）			
（造成計画・施設配置・アクセスルート案） ※配置する施設は以下のとおり ○焼却施設[地域エネルギーセンター] 190t/日（＝95t/日×2炉） ○破碎選別施設 35t/日（燃やせないごみ25t/日、大型ごみ10t/日） ○計量棟（入口2基・出口1基） ○駐車場（従業員用50台・公用車用10台・来客者用20台・大型バス用3台） ○構内道路 ○雨水調整池 ○緑地（植栽・芝張） ○その他	 【アクセスルート及び建設箇所における留意事項】 - 建設箇所は、住居からの離隔を確保する。また、オオタカ営巣中心域を避けて設定する。 - アクセスルートについて、現況道路との接続起点は、大和田橋交差点とする。 - 道路構造令を参考に、曲線半径として30m以上の線形とする。 - 大和田橋交差点から既存道路を結ぶ約280m区間のみ新設道路として、残りの区間は既存道路の拡幅を行うことにより計画した。 - 渡河部から前台新池周辺までは、北側住宅地への配慮のため防音壁を設置する計画とした。 - 延長は約1.11kmとなる。	 【アクセスルート及び建設箇所における留意事項】 - 建設箇所は、住居からの離隔を確保する。また、オオタカ営巣中心域を避けて設定する。（ただし砂防指定地、地域森林計画対象民有林に指定されていることに留意） - アクセスルートについては、大和田町北側と同様。 - 候補地の造成基盤高さ（FH＝102.0mで計画）に登坂するアクセス道路を市道部から接続する形で整備するに当たり、既存の地形を考慮し、市道との高低差が小さい場所を接続部として選定したため、延長は大和田町北側より長く約1.44kmとなる。	 【アクセスルート及び建設箇所における留意事項】 - 建設箇所は、住居からの離隔を確保する。また、洪水浸水想定区域（0.5m以上）からの離隔も確保する。 - 工業地域に隣接する形で焼却施設等を配置した。また、現道を活かしたアクセスルートとするため、「みらい価値共創センターコトクリエ」前の交差点からの現道に寄せた位置とした。 - アクセスルートは、「みらい価値共創センターコトクリエ」前の交差点からの約190m区間の既存道路の現況幅員内で歩道・車道を区分して整備する。
	（敷地部分拡大図）  【配置における留意事項】 焼却施設の煙突（○）を、住宅街から可能な限り離して配置した。	（敷地部分拡大図）  【配置における留意事項】 焼却施設の煙突（○）を、住宅街から可能な限り離して配置した。	（敷地部分拡大図）  【配置における留意事項】 焼却施設の煙突（○）を、住宅街から可能な限り離して配置した。

		- 住居側には緑地等の空地を配置した。必要な広さは、緑地面積に係る基準としては「敷地全体面積のうち環境施設面積率 10%以上、緑地面積率 5%以上」であるが、円滑な建設工事のための余裕地として約 1ha の空地（仕上げは芝張とする）を確保する。 - 敷地の入口から計量棟へ至り、計量棟～各施設～計量棟を回る車両動線が交錯しないように、各施設及びそれらのランプウェイの向きを設定した。また、場内（計量棟前）に可能な限り長く車両滞留場所を計画した。 - 調整池は、傾斜地のため敷地内の低い側となる東側に計画し、敷地外の水路等への接続もしやすい計画とした。 - 北側の住宅への配慮として、場内動線を北側から離した。	- 住居側には緑地等の空地を配置した。必要な広さは、緑地面積に係る基準としては「敷地全体面積のうち環境施設面積率 10%以上、緑地面積率 5%以上」であるが、円滑な建設工事のための余裕地として約 1ha の空地（仕上げは芝張とする）を確保する。 - 敷地の入口から計量棟へ至り、計量棟～各施設～計量棟を回る車両動線が交錯しないように、各施設及びそれらのランプウェイの向きを設定した。また、場内（計量棟前）に可能な限り長く車両滞留場所を計画した。 - 調整池は、隣接する排水先がある北側で、盛土部に計画した。 - 補強土壁の内側（補強盛土範囲）には建築物がかからないように計画した。なお、砂防指定地のため擁壁構造については県協議が必要。	- 住居側には緑地等の空地を配置した。必要な広さは、緑地面積に係る基準としては「敷地全体面積のうち環境施設面積率 10%以上、緑地面積率 5%以上」であるが、円滑な建設工事のための余裕地として約 1ha の空地（仕上げは芝張とする）を確保する。 - 敷地の入口から計量棟へ至り、計量棟～各施設～計量棟を回る車両動線が交錯しないように、焼却施設・破砕選別施設及びそれらのランプウェイの向きを設定した。また、場内（計量棟前）に可能な限り長く車両滞留場所を計画した。 - 調整池は、南側にある用水路を接続先として、敷地南西側に計画した。				
評価項目								
生活環境	道路交通への影響	- 現況では北側において朝ピーク時に 7 時 30 分頃から 9 時 40 分頃まで渋滞が発生している。 - 交差点交通量がピークとなる 8 時台において、収集車分の交通量が増加しても、砂茶屋橋東詰交差点、出口橋西詰交差点、（仮）大和田橋東詰交差点において、需要率はいずれも 0.9 未満、各方向の交通容量比も 1.0 未満であり、交差点容量には余力がある状況となっている。 - 渋滞への対応として、収集車は渋滞時間を避けて、9 時 40 分以降に通行するといった運用が考えられる。 - ただし、クリーンセンターへの代替路がなく、災害時や事故等で通行止めが発生すると、アクセスが困難となる。	同左（大和田町北側と同じ）	- 現況で渋滞は発生しているが、収集車の稼働が多い朝ピークにおいては、南永井町交差点は 9 時 10 分頃に解消している。西九条町南交差点は東西方向で発生しているものの、西側は収集車が少数であり、東側は 20 分未満の渋滞が何度か発生している程度となっている。 - 交差点交通量がピークとなる 8 時台において、収集車分の交通量が増加しても、西九条町南交差点、南永井町交差点、みらい価値共創センターコトクリエ前の交差点において、需要率はいずれも 0.9 未満、各方向の交通容量比も 1.0 未満であり、交差点容量には余力がある状況となっている。 - 渋滞への対応として、収集車は渋滞時間を避けて、南永井町交差点は 9 時 10 分以降に通行するといった運用や、西九条佐保線を利用するといった運用が考えられる。 - クリーンセンターへのアクセスは主に北部方面から国道 24 号、西九条佐保線、木津横田線があり、災害時や事故等で通行止めが発生しても代替ルートがありアクセス可能と想定される。				
自然環境	生物の生息状況	- 当候補地に近接する「矢田丘陵エリア」は、「奈良市自然環境調査」（平成 23 年度、令和 3 年度）において継続的に自然環境のモニタリングが行われており、ニホンイシガメやニホンアカガエル、ミナミメダカなどの絶滅危惧種が確認されているエリアである。工事が周辺の水域環境に影響を及ぼす恐れがある場合は、環境保全措置として、動植物の周辺環境への移殖(移植)や下流河川への濁水抑制、ニホンアカガエルの代替繁殖池の整備等が想定される。（工事遅延リスクは小さい。） - 一方、鳥類について実施した調査の結果、建設箇所周辺でオオタカが繁殖していることが確認された。候補地区は林縁の耕作地であり、オオタカの繁殖ペアの営巣中心域（営巣木及び古巣周辺 300m を目途）に極めて近い。環境省発行「猛禽類保護の進め方（改訂版）」では、営巣中心域は「この区域の改変や立ち入りは、繁殖の失敗や繁殖地の放棄につながるおそれがある」地域とされており、繁殖環境の保全のため、営巣期（2～7 月）工事の中断やモニタリング調査を求められる可能性が高い。（工事期間が 2 年程度長くなる可能性あり。）	- 基本的に大和田町北側と同様であり、建設箇所周辺でオオタカが繁殖していることが確認された。ただし、位置関係の違いにより、大和田町北側よりも比較的離れている。候補地区は丘陵の樹林地であり、オオタカの繁殖ペアの高利用域（主な餌場を含む範囲）であると推測される。環境省発行「猛禽類保護の進め方（改訂版）」では、高利用域は「オオタカの食物となる鳥獣の生息不適地の増加と生息地の分断化、自然環境の単純化に注意していく必要がある」地域とされており、営巣環境への影響は大きくないものの、モニタリングが求められる可能性が高い。（工事工程への影響は限定的である。） - ただし、オオタカが営巣木を変えることで営巣中心域に移行する可能性もある。（その場合「大和田町北側」と同じく、工事期間が 2 年程度長くなる可能性あり。）	- 平地の水田を中心とした耕作地で、周辺は市街地となっており、生物多様性が相対的に低い地域である。 - 地蔵院川に近いことから、ニホンイシガメやミナミメダカなどの絶滅危惧種が生息している可能性がある。工事が周辺の水域環境に影響を及ぼす恐れがある場合は、環境保全措置として、動植物の周辺環境への移殖(移植)や地蔵院川への濁水抑制等が想定される。（工事遅延リスクは小さい。） - 生物の生息状況の観点からは、他の候補地より優れる。				
経済性	施設整備にかかる費用							
	造成工事	アクセス道路整備	(直工＋諸経費)	429,389,000 円	(直工＋諸経費)	527,571,000 円	(直工＋諸経費)	49,404,000 円
		敷地造成工事	(直工＋諸経費)	1,954,865,000 円	(直工＋諸経費)	2,577,642,000 円	(直工＋諸経費)	255,597,000 円
		地域エネルギーセンター 建設費	(直工＋諸経費)	40,531,400,000 円	(直工＋諸経費)	41,064,900,000 円	(直工＋諸経費)	41,128,066,667 円
		破砕選別施設 建設費	(直工＋諸経費)	8,141,733,333 円	(直工＋諸経費)	8,225,333,333 円	(直工＋諸経費)	8,318,433,333 円
		送電線工事費		364,000,000 円 ※平常時に混雑発生あり		312,000,000 円 ※平常時に混雑発生あり		208,000,000 円 ※混雑なし
		上下水道工事費		70,455,000 円		160,217,000 円		－
		用地取得費 アクセス道路		280,665,000 円		316,002,000 円		－
		施設敷地		1,008,000,000 円		27,200,000 円		1,029,000,000 円
		文化財調査費		－		－		500,000,000 円
		(合計)		52,780,507,333 円		53,210,865,333 円		51,488,501,000 円
	維持管理・収集運搬にかかる費用							
		地域エネルギーセンター 運営費		18,328,351,693 円/20 年		18,328,351,693 円/20 年		18,328,351,693 円/20 年
		破砕選別施設 運営費		5,986,025,000 円/20 年		5,986,025,000 円/20 年		5,986,025,000 円/20 年
		収集運搬費	(第 70 回策定委員会より)	33,920,000,000 円/20 年	(第 70 回策定委員会より)	33,920,000,000 円/20 年	(第 70 回策定委員会より)	33,600,000,000 円/20 年
その他	液状化対策	- アクセス道路が、砂防指定地に該当又は隣接している。 - 崩壊堆積物等の沖積層である砂層は、N 値が 10 前後又は 10 以下の埋土で構成されている。地下水位が GL-4m までの部分については、液状化の可能性が否定できないため、「液状化対策が必要」となる可能性がある。	- 施設敷地及びアクセス道路が、砂防指定地に該当している。 - 崩壊堆積物等の沖積層である砂層は、N 値が 10 前後又は 10 以下の埋土で構成されている。地下水位が GL-4m までの部分については、液状化の可能性が否定できないため、「液状化対策が必要」となる可能性がある。	地質調査及び室内土質試験の結果、液状化に対する安全率 FL は 200gal で FL>1 を示し「液状化の可能性は低い」の判定となった。しかし、350gal では FL<1 となったため「液状化対策が必要」となる。				
	電力インフラ整備	送配電会社側で変電所において混雑解消のために変圧器の更新(数十億円)が必要となれば、工事費負担金が高額になるおそれがある。	同左（大和田町北側と同じ）	現時点では混雑等の情報は提示されていない。				
	工事期間の長期化リスク	上述したとおり、オオタカ繁殖環境保全のための工事中断リスクの他、アクセス道路工事が概ね 1 年以上必要となる。	同左（大和田町北側と同じ）の他、さらに、造成規模が大きく全体スケジュールで律速（クリティカル）となるおそれがある。	工事期間が長期化するリスクは、他候補地に比べて小さい。				

作成:パシフィックコンサルタンツ株式会社